

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2791600022		
法人名	有限会社 コミュニティハウス		
事業所名	グループホームめいの家		
所在地	大阪府吹田市五月が丘北6-12		
自己評価作成日	平成 27年 1月 23日	評価結果市町村受理日	平成 27年 3月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2791600022-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2791600022-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 2月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度、家族会と職員は「山歩き」「釣り」など交流を深めることができました。サポーター養成講座にはほとんどの家族と近隣の方々が大勢集まってくれました。秋のターミナル研修は、Dr.を中心に本音をぶつけ合うことができました。また、グループホームの介護士を中心に、17施設、プロジェクトチーム33名が力を合わせ、吹田市民の方々に向けて、グループホームでの生活や老いについて「語り合おう 介護の魅力 あなたの笑顔に癒される わたしにできることプロジェクト」が始動した。横につながりを作り、暮らしやすい街作りを考える年にしたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の一つである利用者一人ひとりの夢を叶えるために、地域や家族会の協力を得ながら、夏祭り、運動会、クリスマス会などに取り組んでいます。職員同士の関係が良く、皆で利用者が楽しむことにエネルギーを注ぎ、職員も仕事を楽しくしています。家族会が機能しており、独自でアンケートを実施し、「めいの家山部・釣り部」など家族、職員相互の交流もあり、本音で話し合う関係を構築しています。家族会の協力も得ての大掃除、利用者全員参加の1泊旅行も恒例となりました。年間の行事や旅行の催しには、職員が趣向を凝らした芸を披露しており、利用者、家族の楽しみとなっています。行事には、地域の子どもたちも参加し、子供神輿やダンスを披露しています。市内のグループホームや行政と協働して、住民や介護者家族に介護や認知症の理解を目的として、「わたしにできることプロジェクト」を企画しています。また、認知症サポーター養成講座も実施し、地域からの相談窓口として機能しています。日常的にはホームで飼っている犬の散歩に出かけ、犬の散歩仲間や近隣のコンビニでの買い物等を通して、地域住民との繋がりが広がってきました。また、利用者や家族の要望に応じて、終末期の対応もしています。利用者は住み慣れた場で、馴染みの人たちに見守られながら、最後の時間を家族や職員と共に過ごしています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根指し、心豊かに暮らしていこう！」を理念としています。「ここに来てよかった」「あなたに会えてよかった」「生きていてよかった」いろんな「よかった」を応援し、地域の自治会、子供たちの協力を得て、夢叶う明日に向けて取り組んでいます。	「地域に根ざし、心豊かに暮らしていこう」を理念に掲げています。理念を基に「行きたい時に行きたい所へ、食べたい時に食べたいものを食べる。小さな夢も大切にしよう」を運営方針として、毎年職員でフロアごとの目標を掲げ、実践に取り組んでいます。管理者は、「未来に誇れる今を生きる人である」ことを、職員にキーワードとして伝えています。理念を具現化するために、職員は利用者が何をしたいか、どのように暮らしたいかを聞き取り、夢の実現に向けて支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、役員も務めています。五月ヶ丘の夏祭り出店にも積極的に参加をしています。今年の春祭りも、自治会とめいの家とで合同開催し、地域の子供たちと一緒に踊りました。11月のめい祭では子供用神輿をつくり、子供達と一緒に町内を廻りました。12月にはクリスマスイルミネーションの点灯式があり、たくさんの子供たちが参加してくれました。毎年恒例のお餅つきにも地域の方々がたくさん参加してくださいました。開設時より飼っている犬の散歩を通じて、ご近所の方々との交流も続いています。	ホームは、開設時から自治会に加入し地域住民の協力を得ながら、地域に根差したホームを目指してさまざまな活動に取り組んできました。この数年、地域自治会の子ども達との交流が深まり、夏祭り、クリスマス会等の行事でダンスを披露したり、神輿を担いだり、たこ焼きの模擬店を利用者と共に楽しむなど、地域住民と一緒に行事に参加しています。認知症の理解を深めるために、地域に向けて認知症サポーター養成講座をホーム内でも開催しています。また、近隣にあるコンビニは、利用者の行きつけの場所となりました。コンビニの店員や、犬の散歩で知り合った地域住民との交流も広がってきました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げて いる認知症の人の理解や支援の方法 を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>中学校の職業体験・福祉体験、新人教 員初任者研修・夏のボランティアなどを 積極的に受け入れ、「認知症とは？」・ 「GHとは？」・「車いすにのってみよ う！」などさまざまな実習に取り組んで います。自治会・家族会と協同で認知 症サポーター養成講座も実施予定で す。 また、本年度は「わたしにできることプ ロジェクト」という団体を、吹田市内の GH・特定施設の介護職員有志により 立ち上げました。これは利用者さんと の日常の中で生まれた「楽しい」「嬉し い」「悲しかった」といった話を発表し、 市民の方へ「介護」をより身近に感じ、 深く知ってもらいたいという事を目的と して団体で、3月に発表会を行う予定 です。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会役員・自治会役員・Dr.・Ns.・地域包括支援センター職員・社会福祉協議会職員・GH職員が集まり、2ヶ月に一回開催しています。施設の行事を軸に地域・医療等さまざまな視点から話し合っています。	運営推進会議は規程・規約作成し、2カ月に1回、開催しています。構成員は、家族会役員、自治会役員、主治医、訪問看護、地域包括支援センター職員、ホーム職員です。月により参加者は異なりますが、参加できない場合は、会議録を届け、経過を報告しています。会議では、ホームの行事や認知症サポーター養成講座の報告、家族会が主催するターミナルの研修会など、取り組みの状況を報告しています。ホームの行事を軸に、地域・医療等さまざまな機関との連携が図れ、認知症への理解が少しずつ地域に広まり、地域から相談を受けるなど、成果として表れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に1回のグループホーム連絡会への参加、市主催の介護フェアへの参加等をしています。また、市担当者、市内グループホーム職員との情報交換を行い質の向上に取り組んでいます。近隣のグループホーム等には、夏祭り・お餅つきなど催しの時にお手紙をだしたりして、お誘いしたりもします。</p> <p>上記のグループホーム連絡会にて発案し、市の後援を頂き発足した「わたしにできることプロジェクト」、他の施設の職員同士でチームを作り、連携を合わせてプロジェクトを進めています。</p>	<p>2ヶ月に1回行うグループホーム連絡会は、市の担当者の参加や、開催場所が市役所内であることから、担当者以外の職員とも顔を合わせる機会が多く、情報交換を行っています。グループホーム連絡会の有志で立ち上げた「わたしにできることプロジェクト」に、市や市の教育委員会も後援し、協力を得ています。市の担当者は、チラシの配布等を担ってくれる等、協力体制があります。認知症サポーター養成講座にも市の担当者へ声かけし、参加を得ていることや、市へ書類提出時等で出向く際にも進んで話をするなど、担当者との連携を密にしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の意味を理解し、禁止の対象となる行為を考え、話し合う機会を持っています。面会時に家族とも話し合いの機会を持っています。</p>	<p>身体拘束に関する内部研修を実施して身体拘束の理解を深め、禁止の対象となる行為を職員間で共有しています。玄関の鍵はオートロックですが、内側から自由に開錠することができます。玄関の開錠については、家族から安全面について意見が出されたこともあります。見守りをすることを伝え、話し合う中で開錠への対応を実施しました。各階のエレベーターも自由に利用でき、1階のデイサービスや2・3階フロアに自由に行き来できます。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待事例から考える外部研修に参加し、それをまた、内部研修として全職員に伝えてもらいました。法制度を理解し、全員で意識を持って取り組んでいます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員に制度を理解してもらえよう話し合いをしています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を見ていただき説明しています。理解を得られるまで細部に渡り説明し、幅広い情報の提供を心がけています。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会ができたおかげで、今まで以上に家族の協力が大きくなりました。家族会役員の呼びかけで、たくさんの家族が行事に参加して下さるようになり、大掃除をして下さったり、家族会より提案を頂き、めいの家で地域の方を対象にした認知症サポーター養成講座を開きました。また、「めいの家山部」に続いて「めいの家釣り部」もでき、家族会メンバー・職員と一緒に楽しんでいます。その中で話をする機会も多くあります。面会時には声をかけ、電話等でも意見・苦情を聞き取っています。職員にはミーティングなどで情報提供し、問題発生の際は、早期解決を今までと変わらず続けています。</p>	<p>家族会があり、釣り部、山部などのクラブや行事を通じて、家族同士や職員との交流が行われています。1泊旅行や年間の行事にも家族が参加しており、利用者、家族、職員の垣根のない関係が構築され「本音で語り合う場」ができてきました。家族会が独自でアンケートを実施し、家族の要望や意見を取りまとめ、ホームの運営に反映しています。家族からの要望により、「認知症サポーター養成講座」をホーム内でも実施しています。家族会より、他事業所の家族会の活動について知りたいとの要望があり、他事業所と交流会も実施しました。家族会が独自で「家族通信」の発行もしています。家族会の運営に必要なファイルや事務用品を保管するボックスも家族会で購入し、事務所においています。職員は「メイズタイムズ」を発行して、写真や一人ひとりの様子をメッセージとして記し、発送しています。また、遠方でホームの来訪が難しい家族には、通信の発送と共に、メール等で情報交換をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会議・各フロア会義で意見を聞くようにしています。又、管理者は個別に職員と話し合いも行っています。	職員は「スタッフケアプラン」をリーダーと話し合いながら作成しています。スタッフケアプランは、自己の課題や改善策など、リーダーや管理者と共に話し合う場であり、意見や要望を出す機会が伴っています。また、管理者は日頃の関わりの中で、職員の様子を見ながら個別で話を聞くように努めています。管理者は、意見や提案を聞き、事業所の運営に活かすことの大切さを認識しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今後、職員個々の努力や実績等を把握、査定することが出来るよう基準作りをしました。各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めています。今年も全職員のケアプランを作成し話し合いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修を実施しています。本年度は、認知症ケア・食中毒予防・個人情報の取り扱い・プライバシー保護・虐待予防・感染症予防策と発生時の対応について等です。又、職員より希望のあった研修内容も取り入れています。他に新人職員に対しては新人研修を実施しています。講師となるのは施設長だけでなく、職員も講師を務めます。そのために職員一人一人が勉強しています。全職員に研修ファイルを配布、外部研修を受講した場合には記録を作成し、研修報告書を回覧しています。又、介護福祉士合格に向けて勉強会を開催、資格取得に取り組んでいます。また、内部研修として事故防止研修会を行っています。その他にフロア職員全員が期間ごとに交代でリーダーを担当するリーダープロジェクトを行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催するグループホーム連絡会・ケース検討会議・地域連絡会議・担当者会議等に参加し、情報交換を行っています。GH 連絡会では、他施設と共同で認知症サポーター養成講座を開催し、介護職員の交流会も企画しました。また、3月には「わたしにできることプロジェクト」と銘打ち、吹田市の介護職員による事例発表会を行います。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時より担当になるCWが細かく、本人の希望・夢・生活歴を聞き取り、ご家族と共に本人の安心を確保するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・考え方・希望問題点等を聞き取り、日々の生活を共に考えるようにして、信頼関係を築く努力をしています。何でも言い合える関係作りを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入念な聞き取りをします。常に必要なことは何か、最優先することは何かを、広い視点で考えるよう努めています。その上で、日々の変化等をスタッフ全員で共有し、一日も早く落ち着いた生活ができるよう見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自慢できること・得意なことは、皆に教えてもらい、苦手なことは、皆でサポートする関係を大切にします。「やってみよう」という気持ちで取り組めるよう、楽しめるよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会発足で行事に参加して下さる家族の方が増えています。今年のお餅つきでは、家族の方がお餅つきのやりかたを教えてくださいました。また、ケアプラン担当者として、ご家族の名前があがるなどし、月に2~3回マッサージをして下さる家族さんもおられます。面会時などに不安や質問などを聞き取り、信頼関係を築いていく努力を続けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>部屋には、自宅で使っておられたタンスや布団、大切にしておられた物や写真を持って来てもらうようにしています。面会時間は特に設けず、気軽に立ち寄ってもらえるようにしています。</p>	<p>近郊からの利用者が多く、職員は、近くのスーパーで働く家族に会いに行くことや、教会へ行く利用者等の支援をしています。入居前から付き合いのあった友人夫婦の訪問がある等、できるだけ馴染みの関係を支援しています。ホームも創立10周年を迎え、毎日の外出や、地域やホームで行う行事への参加を通し、隣近所とも新しい馴染みの関係ができています。コンビニの店員や近くの子ども達、犬友達等、会えば声を掛け合う関係を構築しています。ホームが地域に馴染んでいます。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>いつも利用者同士の仲に入っているわけではなく、個々の関係を大切に見守っています。又、コミュニケーションが行き違わないよう援助することを心がけています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に、特養への転所がありました。休みの日に職員が訪問したり、家族にも定期的に電話やメールで様子をうかがっています。又、何かあった時には、相談してくれるよう常に伝えています。本年はお一人の方がお亡くなりになりました。ここで終末期を迎えられ、ご家族・職員で見送りました。また、ご家族の希望で、めいの家でお別れ会をして、職員・利用者に見送られ出棺しました。ご家族は家族会賛助会員として、今も家族会を盛り立ててくださっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートにある項目を、担当職員がゆっくり聞き取る所から、一人一人の夢や、これからの生活に対する希望を探し、夢叶うよう支援しています。	担当職員が決まっており、一人ひとりの思いや暮らし方の意向を情報収集し、記録に残しています。入居後もどのような生活をしたいか、好き嫌いやこだわりなど、家族とも連携を図りながら確認しています。終末期の暮らしについても、どこでどのように過ごすことが最良なのか、利用者の思いや意向をくみ取り、家族を交えて検討しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートにある項目を担当職員がゆっくり聞き取り、見えてきた生活歴・性格などから、家族と共に考える時間を持つようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員、日々の過ごし方はさまざまなので、一人一人に対応できるよう心がけています。又、日々訴えもさまざまなので個別に聞き入れる余裕を持ち対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本筋は「本人の夢を叶えること」。家族の要望も含め、今一番大切なこと、今一番必要なこと、楽しく暮らすための課題を常に探しています。	介護計画書は、個別記録や連絡ノートで情報を収集し、3カ月に1回、また状態の変化があった場合に見直しを行っています。計画は、利用者の「夢を叶える」ため、短期目標、長期目標を利用者、家族と共に話し合い作成しています。フロア会議、カンファレンス会議で利用者のモニタリングを毎月行っています。利用者の情報は、「ライフヒストリー」「ホームでの生活」のシートを活用し、午前、午後、夕方、夜間の利用者の様子を3カ月毎に記載しています。また、仲の良い人、好きな場所、家人との関わり、好きな話、生活での気づき等を記録に残し、利用者の経過が分かるように工夫しています。	職員は、介護計画と日々の実践記録の繋がりが弱いことを課題として捉えており、全員の介護計画が常に確認できるよう、記録の表紙に挟むなどの工夫をしています。今後も計画に沿った記録に繋がると、職員同士で働きかけてはいかげでしょうか。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろん、連絡ノートを活用しています。又、問題がある場合は、早急に集合し、全員で話し合うようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナル期の家族の宿泊、行事への参加、近隣参加、行きたい所へ、行きたい時に行きたいと言えるように、どんな訴えでも伝えることのできる、わがまま言える居場所作りをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーマーケット・お好み焼き屋・喫茶店・コンビニなどに行きます。外出することで、挨拶を交わすなどをして、地域の方との交流も大切にしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本年度4月より、毎日利用者一人ずつ、往診ドクターの診察があります。又、精神科・皮膚科・眼科等は地域のかかりつけ医を作っています。	入居時にホームの医療連携体制について説明し、利用者一人ひとりの希望に応じています。医療紹介状を持参し、ホーム連携医療の受診を希望する方や、これまでかかりつけの医療機関を受診する利用者もおり、職員や家族で支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p><b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携の医師と訪問看護師との連携と、「いつもと違う」という介護士の状態変化の気づきを大切に、少しでも早く適切な診察が受けられるように、一丸となって努力しています。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療連携医の最終判断により、入院を決定することが多いですが、入院後は家族と職員が常に連絡を取り合い、入院先の主治医の意見・経過等も一緒に聞き、一日も早い帰所に向けて、積極的に支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、Drより指示のあった段階で家族と話し合いを重ね、Dr・Ns・CW・家族(本人)同席の元、方針を決定しています。そして、職員全員で(ユニットの違う職員も含)看取りを考え、進めます。又、延命するかどうか、看取りについての希望確認書を入所時に家族に実施しています。希望確認書の意向の変更は随時可能で、話し合いの際にも意向の確認をし、ケアに反映しています。	利用者、家族の希望に応じて、終末期の支援や看取りを行う方針を決定し、医療との連携を図りながら取り組んでいます。看取った家族から感謝の言葉や、利用者との関わりから、職員の意識が変わり、「利用者にとって最善の方法」で終末期ケアを考えるようになりました。終末期には、利用者、家族、医師、看護師とカンファレンスを実施し、終末期ケアプランを作成して、支援の方向性を決定しています。看取った家族から、家族会を通じて看取ることについての研修会が行われ、家族と共に考える機会となりました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修として、事故防止研修会を実施しています。ストレスマネジメント・バイタルサインについて等の研修を行いました。利用者の急変対応や、その時に必要だと思われる内容を委員で話し合い、研修内容に反映させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年は、6月・11月に消防訓練を実施しました。11月の消防訓練の時には、連合自治会役員の方、地域の方、子供達も参加してくださいました。</p>	<p>スプリンクラーや消火器の設置、災害時のマニュアルを作成しており、年2回の避難訓練を実施しています。地域の自治会との関係ができており、自治会の協力を得て、地域と共に防災訓練を実施しています。年1回は消防署の協力も得ています。リビングからの避難通路については、夜間の車いすでも避難が可能になるよう、テーブルや椅子の配置を変更して対応しています。地域の総合防災訓練にも参加しています。2・3階が居住空間となっており、ガスコンロを使用していることから、日頃から使用方法については注意を払っています。</p>	<p>避難経路については、今後も常に避難方法についてイメージし、継続して取り組むことが期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いを実現すべく、情報収集し、常に何を願い、求めているかを知るための努力をしています。	利用者一人ひとりの尊重やプライバシー、守秘義務等について、職員が講師となり、研修を行っています。職員が講師となることで、日常生活の場面において、さまざまな気づきがあり、自己を見直す機会にもなっています。他機関との連携における情報の共有や公共の場への写真掲示などの際にも、文章で条件を謳い、同意書で確認をしています。意思表示が困難となった利用者の要望をどう把握するか、単に丁寧な言葉を使うのではなく、利用者の思いを聞きながら、一人ひとりが安心する言葉遣いをするなど、会議で話し合いをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	忘れてしまうことが多くなってくると、なかなか以前していたことや、したいことが言葉になって表れません。雑談などしながら、思っていることを引き出すことも大切ですが、今までの生活の中で、習慣としていたことも大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、起きておられる方からで、特に時間は決めていません。昼食は12時に席につきますが、それも決まりはありません。夕食も、お腹がすいたら…という感じです。入浴は入りたい時間に、日にちも特には決めていません。ベースになる個々の生活を把握し、それぞれの日常と関わりをゆっくりと過ごしてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容師の方にカットをお願いしています。その日の気分で洋服を選んでもらうことで、本人の好きな物を理解し、一緒におしゃれを楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を軽いものにしたたり、使いやすいものにしたたり、個人の力を活かしながら、職員も一緒に食べるようにしています。又、ご自身で準備・片付けができる方はおられませんが、ご自身で食べることを促し、楽しい食事時間になるよう努力しています。	昼食、夕食は併設するデイサービスから下ごしらえしたものが届き、各ユニットで味付けや盛り付けを行っています。利用者の得意分野に応じ、準備や片づけをしています。デイサービスの休館日には、利用者と共に買い物へ出かけ、調理を行っています。デイサービスの利用者と共に、元板前が握る寿司やなべ料理等も楽しみにしています。職員は、利用者と共に食事を摂り、会話をしながらさり気なく介助をしています。食事会議やメニュー会議があり、利用者の好物や安全な食事について話し合っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表は日々つけています。食意が低下した人、体調の悪い人は、食事量も記録しています。水分は、好みや嚥下状態があるので、その人それぞれに応じた飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日、訪問歯科医・歯科衛生士に治療・口腔内を清潔にしてもらいます。歯医者でできることは、すべて可能となったので、実際に治療もしてもらっています。歯科衛生士にアドバイスをもらい、日々の口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿漏れのある方はパンツの中にパットを使用、尿意のない方・定かではない方は適時トイレへの誘導を行っています。気持ちよく日々を暮らすため、排泄の工夫は一丸となってやっています。	尿意の訴えがない利用者に対しても、おおよその時間を見ながら、定期的にトイレへ誘導を行い、健康チェック表に記載しています。オムツを使用するのではなく、下着は布製のパンツで必要に応じてパッドを使用し、快適に過ごせるよう取り組んでいます。時間誘導で、排泄習慣を確保できている利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まず、食物繊維の多い食事、センナ茶・ごぼう茶・牛乳・バナナ・ヨーグルト等を楽しんで食べてもらうようにしています。適度な運動の促し、十分な水分摂取を意識して行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていません。週に2～3回はしています。意思決定できない方は促しますが、決定できる方においては入りたい時対応です。	入浴は、利用者一人ひとりの希望や習慣に応じて対応しています。毎日希望する人には、毎日でも可能です。最低でも1週間に2～3回を目安に促し、利用者が少しでも気持ちよく入浴できるよう入浴剤やシャンプーなどの工夫をしています。浴槽の壁には、利用者で行った水族館での「魚と一緒に・・・」との声から魚のシールを貼り、楽しく入浴できるよう工夫しています。終末期でもできるだけ湯につかり、入浴を楽しむことができるよう2人体制で入浴できる環境を整えました。皮膚の乾燥やかゆみを訴える利用者のために、麻の布を使用するようになり、かゆみ軽減への効果がみられました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	意思決定できない方においては、午前・午後と休息時間をもうけています。夜は2時間を上限とし、その方の体調や状況に合わせた頻度で巡回し、眠れない夜が続けば、ホットミルクなど一緒に飲んだり、話をしたりして過ごします。意思決定できる方は促しで、後は本人の生活習慣に合わせています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>誤薬がどんなに怖いことかをホームDr.から話してもらい、利用者の薬に興味を持てるようピルブックも各階に置き、処方箋も必ずしっかり眼を通し、薬に変更があった時には個別記録に記載し、周知徹底しています。服薬マニュアルを全職員参加で作成し、誤薬防止に努めています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>コーラ・ビールなどの嗜好品を好んだり、雑誌を読んだり、DVDを観たり、音楽を聞いたり、好きなことを楽しみながら、意欲をだせるように考えています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画が必要な場合には入念な会議をしますが、日々、今日は何をしよう、どこへ行こうと考え、実施することが生活と考えますので、特別なものはありません。ただ、家族の協力は不可欠です。外出・面会状況の記録は、業務日誌に記載するようにしています。	日常的に、犬の散歩やコンビニへの買い物、ファストフード店へ出かけています。朝、新聞のチラシを見ながら「このスーパーへ行きたい」と話す利用者の毎日外出したい思いや、「針がほしい」と話す利用者と手芸店に行く等、できる限り利用者の希望に添った支援を行っています。管理者は、「その日によって出かける所が決まるのが生活」であると考え、日々の外出支援をしています。「山へ行きたい」「昔住んでいた家へ行きたい」等は、介護計画をたてて会議を開催し、家族協力のもとで行っています。年1回の旅行は利用者全員、職員全員、家族等、40人近くが参加しており、旅先のホテルの協力もあって、毎年の楽しみになっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理し、領収書で月一度家族に報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙や電話はあまりありませんが、職員が家族あてにかけた時には本人にもかわっています。家族から贈り物が届いたとき、記念日、体調不良時、体調が良かった時、外出予定が決まった時、買い物をする時、家族に会いたい、話したいと訴えがあった時などです。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが使いやすいように配慮する努力をしています。たとえば、椅子を利用者の座りやすいものに変えたり、クッションを工夫したり、入浴時の椅子も個々に使いやすいものになっています。利用者と相談しながら窓の開閉をし、TVやCD・DVDをつけるようにしています	3階建てのホームは、1階がデイサービス、2階3階がグループホームの居室で、エレベーターで自由に行き来できます。1階には、ミニコンビニと称して、飲み物やカップラーメンなどを販売しています。各フロアのリビング兼食堂の共有空間や廊下の壁、エレベーター内には、花や木、動物などのウォールステッカーを貼り、利用者が楽しめるよう明るい雰囲気を醸し出しています。また、家族の来訪時には、ホームでの様子が分かるよう行事の写真を壁に貼り、利用者と一緒に写真を見ながら会話を楽しむことができるよう工夫しています。台所のガスコンロや流し台など、家庭と同じ設えで、家庭的な雰囲気づくりを心がけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで一人になることがあるとすれば、皆がご自分の部屋に帰ってしまった時だけです。CWと2人で話したい、利用者同士内緒で話をしたい、一人になりたい時は、フロアの事務所か、それぞれのお部屋を使っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使っておられたダンス・仏壇等を持って来られています。それぞれの方のこれまでの生活を考えながら対応しています。歌謡曲が好きな方は、部屋に流し、落ち着ける雰囲気作りをしています。きれいに片づいている所が良いと思わないので、いろいろな所に支えがある、物のいっぱいある部屋が落ち着く方もいます。それぞれの方のこれまでの生活を一緒に考えています。	居室の入口は、各自が自室と分かるように手づくりの表札や写真を貼るなど、工夫しています。室内には、押入れ、袋戸棚があり、荷物を整理できるスペースを確保しています。各居室にはベッドが設置されていますが、利用者の希望により絨毯を敷き、布団で生活している方もいます。室内には利用者の馴染みのダンスやソファ、仏壇、CDなど可能な範囲で自由に持参でき、一人ひとりの好みや生活習慣に合わせて、ほうきを置き、掃除をする利用者もいます。また、居室内には写真や絵画、鉢植え、掛け時計、大きなぬいぐるみ等、利用者の思い思いの物を飾っています。室内のカーテンは、リースを使用しており、利用者の好みの色に合わせて自由に選択できます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の出入口は少しスロープになっているし、浴室は段の大きな階段になっていたりするので、原則バリアフリーではありません。その度声をかけながら生活しています。また、スイッチカバーを変更し、より安全に生活できるよう工夫しています。特に個別の道具の工夫はありませんが、「ワーカーがそばにいること」「ワーカーが声をかけること」が安全に繋がればと思います。		